

千葉市中央区町内自治会連絡協議会

第 4 回 理 事 会

日時：令和6年1月11日（木）

午後4時00分～

場所：きぼーる15階ボランティア活動室

議題（１）令和６年度千葉市中央区町内自治会連絡協議会通常総会の日程について

１ 過去の開催日時及び会場

令和５年度 ５月１３日（土）第２土曜日 蘇我コミュニティセンターハーモニープラザ分館
ハーモニーホール 午前１０時００分～

令和４年度 ５月１４日（土）第２土曜日 蘇我コミュニティセンターハーモニープラザ分館
ハーモニーホール 午前１０時００分～

令和３年度（当初予定）

５月 ８ 日（土） 第２土曜日 きぼーる１１階大会議室 午前１０時００分～

令和２年度（当初予定）

５月 ９ 日（土） 第２土曜日 きぼーる１１階大会議室 午前１０時００分～

２ 令和６年度総会開催予定日時（案）

令和６年５月１１日（土） 第２土曜日 午前１０時００分～

【 参考 】

市連協議会 令和５年度 ６月１５日（木）午前１０時００分～

３ 令和６年度総会予定会場

蘇我コミュニティセンター４Ｆ 多目的ホール

定員 ３９０名

面積 ６１６㎡

１コマごとの料金 ３，２１０円（当日と前日準備のため４コマ※使用予定）

※コマ区分 ９：００～１１：００ １１：００～１３：００

１３：００～１５：００ １５：００～１７：００

１７：００～１９：００ １９：００～２１：００

【 参考 】

- ・きぼーる１１階大会議室 定員１０８名
- ・きぼーる１１階ボランティア活動室１・２ 定員６０名
- ・蘇我コミュニティセンターハーモニープラザ分館ハーモニーホール 定員２００名
- ・過去の総会出席人数
 - 令和５年度 ６７名
 - 令和４年度 ７５名
 - 令和元年度 ９６名

議題（２）令和６年度千葉市中央区町内自治会連絡協議会通常総会における
被表彰者の推薦について

１ 推薦方法

（１）推薦にあたっては、「千葉市中央区町内自治会連絡協議会表彰内規」第１条
第２項に基づき、所定の様式でご提出ください。

（２）推薦者がいない場合も、その旨を書面で回答してください。

<参考>

「千葉市中央区町内自治会連絡協議会表彰内規」

第１条 区域内住民福祉の増進のため、町内自治会活動を積極的に推進し、その実績が顕著で、且つ次の各号の一に該当するものについて、会長がこれを表彰する。

（２）５年以上引き続いて町内自治会長の職にあって退任したもの。

２ 提出期限

令和６年３月２９日（金）

３ 提出先

千葉市中央区町内自治会連絡協議会事務局（中央区役所地域づくり支援課内）

3 議題（3）令和5年度決算見込みについて

中央区連協決算見込み（R6.1.11区連協第4回理事会時点）

【収 入】千葉市中央区町内自治会連絡協議会（単位：円）

科 目		当初予算額	収 入 済 額	差 引 額	摘 要
項	目				
補 助 金	区連協補助金	1,454,000	1,454,000	0	区連協：844,580円、地区連協：609,420円 ※地域運営交付金を除く（第9、13、16地区）
負 担 金	負 担 金	276,134	201,354	△ 74,780	62,067世帯×2円（地区連協負担金） 39人×1,980円（活動研修会参加者負担金）
繰 越 金	前年度繰越金	761,006	761,006	0	
雑 収 入	雑 収 入	9	4	△ 5	預金利子
計		2,491,149	2,416,364	△ 74,785	

【支 出】

科 目		当初予算額	予算流用額	予算現額 (A)	支出額			予算残額 (A) - (B)	摘要
項	目				(B)	補助対象経費	補助対象外経費		
交 付 金	地 区 連 協 交 付 金	609,420	0	609,420	609,420	609,420	0	0	地域運営交付金を除く （第9、13、16地区）
事 務 費	事 務 費	420,000	0	420,000	75,396	75,396	0	344,604	事務用品、郵便代
会 議 費		147,000	0	147,000	123,580	123,580	0	23,420	
	総 会 費	135,000	0	135,000	123,580	123,580	0	11,420	総会資料作成、総会案内送付
	役員会議費	12,000	0	12,000	0	0	0	12,000	三役会・理事会費用
表 彰 費	表 彰 費	55,000	442	55,442	55,442	55,442	0	0	表彰者記念品代、表彰状(9名)
渉 外 費	渉 外 費	33,000	0	33,000	8,000	0	8,000	25,000	年賀名刺交換会負担金、弔慰金
事 業 費	活動研修費	502,000	0	502,000	408,620	323,480	85,140	93,380	350,000円補助対象経費
旅 費	費用弁償	104,000	0	104,000	71,000	71,000	0	33,000	理事、監事の費用弁償
予 備 費	予 備 費	620,729	△ 442	620,287	0	0	0	620,287	
合 計		2,491,149	0	2,491,149	1,351,458	1,258,318	93,140	1,139,691	

【区連協補助金の状況】
（補助金収入）（補助対象支出額）（市への補助金戻入額）
1,452,000円－1,255,032円＝196,968円

【令和5年度への繰越額】
（収入合計）（支出合計）（補助金戻入額）（残額＝繰越予定額）
2,272,321円－1,302,832円－196,968円＝772,521円
（参考：前年度繰越額 650,161円）

議題（４）町内自治会のしおり（中央区版）について

1 現状

町内自治会等役員届にて提出された内容に基づき、町内自治会長の氏名、連絡先等を記載した「町内自治会のしおり（中央区版）」を作成し、各単位町内自治会長に配布している。

2 課題

- （１）個人情報の管理や取扱いについて厳格な対応求められる中、町内自治会活動においても同様な対応が求められる。
- （２）町内自治会しおりの管理が負担となる恐れがあり、また処分に困る等の意見も上がっている。

3 対応案

町内自治会のしおり（中央区版）の作成を取りやめる

【上記対応案に伴い行うこと】

- （１）各単位町内自治会長あて、冊子の作成・配付が無いことを連絡
- （２）単位町内自治会長が町内自治会活動のため、他の町内自治会長の連絡先等が必要となる場合は事務局が個別に対応

【従来どおりの対応となること】

- （１）全市版は例年通り作成し、各地区連会長に配付（作成は市民自治推進課）
- （２）官公署、公民館・コミュニティセンターなど、市関連事業の連絡調整のため、必要となる町内自治会情報を個別に提供
- （３）公共工事の承認、不動産売買・建設等のため、必要となる町内自治会情報を個別に提供

報告（２）令和５年度千葉市中央区町内自治会連絡協議会活動研修会 開催報告について

１ 趣 旨

町内自治活動に関連する諸活動の状況、施設等を視察することにより、地域社会の発展と町内自治会の交流及び親睦を深めることを目的に、区町内自治会連絡協議会による活動研修会を実施する。

２ 開 催 日

令和５年１２月１５日（金）

３ 視 察 先

- （１） 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7－20）
- （２） 防災体験学習施設 そなエリア東京 （東京都江東区有明 3 丁目 8 番 3 5 号）

４ 参 加 者 数

39 人

５ 視察概要

（１） 国立科学博物館

宇宙や動物など地球全体のつながりや進化の過程を展示する地球館と、日本列島の生い立ちから現代にいたるまでの歴史と日本人、自然との関係性を示す日本館、２つの展示を行う施設である。

行程の都合により見学時間は一時間ほどであったが、館内には数多くの展示スペースが存在し、すべての展示を回るのにはまとまった時間を要する施設であるため、見学時間が足りないとの意見も散見された。施設内では展示場所にガイドの方が説明を行っており、その説明に聞き入る姿も見られた。

（２） 防災体験学習施設 そなエリア東京

地震が発生するとどのような危険があるのか、その中でどのような行動が求められるのか、また地震にはどのような備えが必要なのか、地震災害について多角的な視点から体験し、学習できる施設。

そなエリア東京は大きく３つに分かれている。「東京直下 7.2 H ツアー」では、地震発生直後が再現された町を歩き、タブレットから出題される問題に答えながら、実際に地震が発生すると何が起こるのかを学習することができる。特に AR を用いた再現映像には、実際にそこで災害が発生しているような印象を受ける。「映像ホール」では、「東京マグニチュード 8.0 ～東京直下 7.2 H～」というアニメーション作品を視聴でき、外出先で災害が発生した際に、いかにして自分の身を守るのかを映像を通して学習することができる。「防災学習ゾーン」では、様々な防災グッズについて紹介があり、普段からどのような備えが必要なのかを紹介している。

6 総括

「国立科学博物館」では、常設展示の地球館と日本館を見学した。当日は他団体の見学者が多かったことや、見学時間を1時間ほどであったため、「ゆっくり回りたかった、もう少し時間がほしい」といった意見があった。しかし、参加された方の中には博物館内のガイド説明に耳を傾ける様子や、展示を見ながら歓談する様子も見られ、「本当のクマの大きさを確認できた」といった声もあり、館内見学を楽しんでいた。

「そなエリア東京」では、バス1号車2号車の2班に分かれてガイドツアーに参加した。3つのゾーンによって構成されていたが、目玉である「東京直下7.2Hツアー」は専用のタブレットを用いて、積極的に課題に取り組んでいた。アンケートでは、「タブレットを使って謎解き体験ができるところが良かった」「多岐に渡る機器体験を通して防災意識が高められ、大変良かったと思います。」など、特に体験学習に言及している方が多かった。また、避難所の様子を再現したブースでは、再現を見ながら意見を交わす様子も見られた。ほかにも過去の大地震を体験する設備もあり、実際に東日本大震災や関東大震災の揺れを体験していた。「防災学習ゾーン」では、災害に対する備えとして実際に防災グッズを見ながら、何が必要か説明を受けた。また、ビニール袋を活用した三角巾の作成体験には、多くの方が参加していた。

今年度の活動研修会は、令和元年度以来4年ぶりの県外への研修会となり、参加人数は39名と昨年から10名以上参加人数も増え、少しずつ従来通りの活動研修会に戻りつつある。また、「そなエリア東京」の防災施設は自分の地域でも訪れたいという声もあった。今後の地域活動にも、来年度以降の活動研修会にも繋がる、有意義な研修会とすることができた。